

本日一学期終業式を迎え、明日から夏休みに入ります。皆さんが明るく元気に学校生活を送ってくれたことを、とても嬉しく思っています。

4月、始業式・入学式から新しい学年がはじまりました。気持ちを新たに学習や専門の実習に励んだことと思います。遠足、体育祭、防災訓練などの行事の他、日々の部活動にも熱心に取り組んできました。少林寺拳法の四国大会出場、野球部の夏の12年ぶりの初戦突破など、それぞれの活躍があり、皆さんの成長を実感したところです。3年生はこの夏休みに最終の進路を決定づける大切な時期となります。気持ちを引き締め、しっかり頑張ってください。

大河ドラマ「豊臣兄弟」が放送されています。豊臣秀吉の弟、秀長が初めて主人公となった物語です。先週の日曜日、かの有名な「本能寺の変」が描かれました。1月から始まったドラマの前半のクライマックスです。天下統一をひかえた織田信長が、家臣である明智光秀に本能寺で撃たれる場面です。皆さんが使っている「歴史総合」の教科書では、たった1行でしか本能寺の変が記述されていませんが、ドラマでは長い時間をかけて、なぜ信長が家臣である明智光秀に討たれたのか、を丁寧に描いていました。信長を演じたのは小栗旬、光秀を演じたのは日本を代表する演技派俳優、要潤、三豊市出身です。

信長は、自分を裏切ったものに対しては、たとえ弟であったとしても切腹を命じたり磔にしたり、冷酷です。その強さに恐怖を感じます。現在に残された文献にもそのように書かれているのでおそらく史実でしょう。「本能寺で、家臣である明智光秀に信長は討たれた」は史実ですが、信長、光秀にはそこに至るまでの「思い」があり、そこを想像させるところに物語、つまりドラマの面白さがあります。また、ドラマによって「思い」の解釈が異なるところも面白いところです。

今回は「兄弟」を中心とした解釈がされており、信長の死の間際に、最初に信長を裏切った弟が幻想として現れ、許すことができなかったという苦悩や悲しさが表現されていました。さらに、信長の強さの裏にある孤独や悲しさを、対話を重ねて理解しようとする人物、妹であるお市や秀吉、主人公の秀長の「思い」も描かれていました。対話を重ねることで、かたくなであった信長も心を開いていきます。これは現実社会でも同じで、対話こそが他者理解の第一歩で、ドラマから得られる大切なメッセージだと感じています。

皆さんは、身近にいる家族や友人と対話を重ねていますか。家族や友人とトラブルになってしまった時、身近にすぎたわかったつもりになっていたり、私のことをわかって欲しいという思いが強すぎて相手の思いに気が付かなかったりしていませんか。対話とは、自分の言いたいことだけを伝えることではありません。相手の思いも正確に受け取ること

が大切です。皆さんには、行き違いやトラブルがあったとしても、「なぜ」「どうして」と率直にたずね話し合い、互いの理解を深め、対等かつ適切な人間関係をつくる力を身につけて欲しいと願っています。ここで大切なのは、「対等」であること、「適切」であることです。一方的だったり、1人に対し多人数だったりするのは、対等でも適切でもありません。自分の思いが、独りよがりになっていないか、自分自身に問う謙虚さも必要です。

今年度から笠田高校は新しいチャレンジを行います。「北海道インターンシップ型収穫体験プログラム」には、6名の生徒が8月下旬に参加することが決定しました。今年も「東京有楽町みとよマルシェ」にも参加します。「みとよ・かんおんじ醸し文化」では、地元の発酵文化を学び新たな商品開発に繋がります。「幼稚園、小学校、中学校との合同授業」も引き続き行います。どのプログラムも、学校で学んだことが社会でどのように役立っているかを学ぶ「探究力」の育成につながっています。取り組みの状況はホームページなどでお知らせしますので、皆さん注目して見ていてください。

明日から夏休み。暑さも厳しくなってきました。事故や事件に巻き込まれないよう、自分をコントロールし、また2学期始業式で皆さんの元気な姿が見られることを願っています。